

## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年7月30日

上場会社名 円谷フィールドズホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2767 URL <https://www.tsuburaya-fields.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 英俊  
 グループCEO  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役グループCFO (氏名) 小澤 謙一 (TEL) 03-5784-2111  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第1四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	55,555	112.2	7,809	210.0	8,001	140.4	5,575	228.5
2025年3月期第1四半期	26,176	△13.7	2,519	24.4	3,328	52.3	1,696	22.6

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 5,059百万円( 92.9%) 2025年3月期第1四半期 2,622百万円( △6.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	89.61	89.36
2025年3月期第1四半期	26.90	26.86

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	107,024	58,216	49.5
2025年3月期	98,953	56,247	51.6

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 52,933百万円 2025年3月期 51,044百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	150,000	6.7	16,000	4.6	16,100	△2.2	11,200	0.4
							百万円	円 銭
								180.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2025年3月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	65,429,150株	2025年3月期	65,429,150株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	3,208,105株	2025年3月期	3,212,700株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	62,218,906株	2025年3月期1Q	63,082,996株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」およびP. 4「（2）今後の見通しについて」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

・機関投資家・アナリスト向けの説明会は当第1四半期では開催いたしません、通常説明会で配布する資料等については、決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 今後の見通しについて	4
(3) 財政状態に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、全体としては底堅く推移していますが、米国の関税政策に関連する影響はサプライチェーンの再編や貿易構造の変化等広範囲に及ぶことが予想されており、企業や各国政府は柔軟かつ戦略的な対応が求められる局面となっています。

我が国においては、2024年の訪日外客数が3,686万人となり過去最多を記録しました。更に今年4月に開幕した「大阪・関西万博」の影響により、今後も訪日客数の増加が見込まれています。こうした好調なインバウンド需要の拡大は、観光・エンタテインメント産業の発展を一層促進しています。中でも、コンテンツビジネスは映像配信の普及によりグローバル展開が加速しており、海外市場を中心に日本のIPの存在感が急速に高まっています。

このような環境下、当社グループは「すべての人に最高の余暇を」という企業理念のもと、持続的な成長と長期的な企業価値創出の実現に向けた歩みを着実に進めています。今期より「ウルトラマン」IPにおける長年のコンテンツビジネスの実績とグローバル展開の経験、アミューズメント機器事業における有力IP取得ノウハウおよび商品企画力、これらグループ各社の強みを有機的に連携させ、コンテンツのあらゆる領域においてビジネスを展開できる体制の構築を進めています。グループ各社のリソースを最大限に活用し、連携を一層強化することで、新規事業開発および既存IPの収益化に注力し、グローバルコンテンツ企業としての持続的な成長を目指してまいります。

コンテンツ&デジタル事業の中核を担う(株)円谷プロダクションでは、来期に迎える「ウルトラマンシリーズ放送開始60周年」のアニバーサリー企画に向け、当期より各種施策を順次発表してまいります。これに伴い、各パートナー企業と連携したライセンス商品やカードゲーム等のMD（マーチャンダイジング）展開に加え、新たな企業とのコラボレーションも積極的に展開してまいります。

アミューズメント機器事業では、本年5月に発表した3ヵ年事業計画の達成に向け、初年度の取り組みを着実に進めております。当第1四半期においては、有力IPを搭載した複数機種の販売が好調に推移したことに加え、前期に販売した機種が増産が業績に大きく貢献しました。中でも、新たにパチンコ・パチスロ化した『東京喰種』シリーズは、導入以降、トップ水準の稼働を継続しており、ファンおよびパーラーから高い評価を獲得しています。今後も、フィールズ(株)を中心に、市場のニーズに応える遊技機の安定的な開発・販売体制の強化を推進し、業界の発展に貢献してまいります。また、(株)エース電研では、フィールズ(株)との営業拠点統合による経営効率化を進めており、新規顧客開拓が順調に進捗しています。更に、全国12ヶ所の流通拠点を段階的に統合することで、コスト最適化および利益率の向上に寄与する見通しです。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高55,555百万円（前年同期比112.2%増）、営業利益7,809百万円（同210.0%増）、経常利益8,001百万円（同140.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5,575百万円（同228.5%増）となりました。

各事業セグメントの概況は、以下の通りです。

#### コンテンツ&デジタル事業セグメント

(株)円谷プロダクションの第1四半期の状況は以下の通りです。

売上高は2,305百万円、うち主要なカテゴリ（ライセンス/MD（物販）/映像・イベント収入）の合計は2,281百万円（前年同期比7.3%減）となりました。

当第1四半期は、中国において「ウルトラマン」IPの高い人気を背景に、非正規品の出現が頻発しました。これに対しては、現地パートナーとの連携のもと、取り締まり体制の強化を図り、継続した対策を講じております。また、当第1四半期より開始したアリババジャパンとの業務提携を契機に、同社グループのプラットフォームを活用したグローバルECやインバウンドビジネスなど、新たな収益機会の創出に取り組んでいます。これにより、更なるブランド価値の向上を目指してまいります。

カテゴリ別の内訳は以下の通りです。

<ライセンス収入：1,395百万円（前年同期比20.0%減）>

（単位：百万円）

	2024年4月-6月 (前第1四半期累計期間)	2025年4月-6月 (当第1四半期累計期間)	増減率 (%)
合計	1,745	1,395	△20.0%
海外	1,420	1,121	△21.0%
うち中国	1,280	839	△34.5%
うち北米・アジア等	140	282	+101.4%
国内	325	273	△15.8%

<海外>

前述の影響を受け、中国からのライセンス収入が前年同期比で減少しました。一方、グローバルにおける流通網の開拓が奏功し、北米・アジア等からのライセンス収入は前年同期比で倍増しました。

<国内>

前年同期に計上された『グリッドマン』関連収入の反動減により、当期のライセンス収入は減少しました。

<MD（物販）収入：351百万円（前年同期比250.3%増）>

（単位：百万円）

	2024年4月-6月 (前第1四半期累計期間)	2025年4月-6月 (当第1四半期累計期間)	増減率 (%)
合計	100	351	+250.3%
海外	-	119	-
国内	100	231	+131.0%

国内・海外ともに、自社企画商品の拡充によりMD（物販）収入が増加しました。

<映像・イベント収入：534百万円（前年同期比13.2%減）>

（単位：百万円）

	2024年4月-6月 (前第1四半期累計期間)	2025年4月-6月 (当第1四半期累計期間)	増減率 (%)
合計	615	534	△13.2%
海外	233	201	△13.7%
国内	381	332	△12.8%

前年同期に計上された『ウルトラマン：ライジング』、『グリッドマン』関連収入の反動減により、当期の映像・イベント収入は減少しました。

（株）デジタル・フロンティアでは、細田守監督の最新作『果てしなきスカーレット』のCG映像制作の受注に加え、Netflix映画のVFX制作や大型アニメ映画やゲームソフトのフル3DCG制作の受託開発が順調に推移しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ&デジタル事業セグメントの売上高は3,541百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は443百万円（同57.7%減）となりました。

**アミューズメント機器事業セグメント**

フィールドズ（株）では、有力IPを搭載した複数機種の販売に加え、前期に販売した機種の増産ニーズに対応した結果、当第1四半期の販売台数は約9.5万台となり、市場販売台数に占める販売シェアは約26%を記録しました。

（当社調べ）これにより、同期間におけるトップシェアを獲得しております。また、第2四半期に向けては、メインタイトルとしてパチンコ1機種、パチスロ2機種を販売しいずれの機種も完売となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるアミューズメント機器事業セグメントの売上高は51,703百万円（前年同期比131.9%増）、営業利益は8,177百万円（同297.4%増）となりました。

[遊技機販売台数及び主な販売タイトル]

	2024年4月-6月 (前第1四半期累計期間)	2025年4月-6月 (当第1四半期累計期間)	増減率(%)
パチンコ	8,615台	39,699台	+360.8%
パチスロ	20,676台	55,541台	+168.6%
合計	29,291台	95,240台	+225.2%

[第1四半期の主な販売タイトル]

区分	主な販売タイトル	販売台数 (万台)
パチンコ	eシン・ウルトラマン	3.9
	e東京喰種	
パチスロ	Lパチスロ 機動戦士ガンダムSEED	5.5
	L ULTRAMAN	
	スマスロ デビル メイ クライ5 スタイリッシュトライブ	
	L 絶対衝激～PLATONIC HEART～	
合計		9.5

[第2四半期以降の主な販売タイトル]

区分	主な販売タイトル
パチンコ	e犬夜叉3.0
	e ベルセルク無双 第2章
パチスロ	L Bパチスロ エヴァンゲリオン ～約束の扉～
	L ダーリン・イン・ザ・フランキス
	スマスロ 新鬼武者3

**その他事業**

その他事業の当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高447百万円、営業損失8百万円となりました。

(2) 今後の見通しについて

上述の通り各セグメントの業績は順調に推移しており、2026年3月期の連結業績予想は5月13日公表の内容から変更ありません。

(注1) 本短信に記載の数値は各社・各団体の公表値または当社推計によるものです。

(注2) 本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(3) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、78,685百万円と前連結会計年度末比8,844百万円の増加となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。

有形固定資産は、10,324百万円と前連結会計年度末比93百万円の増加となりました。

無形固定資産は、2,338百万円と前連結会計年度末比221百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、15,675百万円と前連結会計年度末比1,090百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は107,024百万円と前連結会計年度末比8,070百万円の増加となりました。

(負債の部)

流動負債は、33,348百万円と前連結会計年度末比6,577百万円の増加となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。

固定負債は、15,458百万円と前連結会計年度末比476百万円の減少となりました。これは主に長期借入金の減少によるものです。

以上の結果、負債の部は48,807百万円と前連結会計年度末比6,101百万円の増加となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、58,216百万円と前連結会計年度末比1,969百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	30,954	31,628
受取手形、売掛金及び契約資産	12,809	18,657
電子記録債権	4,342	4,297
商品及び製品	697	1,298
仕掛品	10,960	12,856
原材料及び貯蔵品	3,733	3,884
商品化権	3,323	3,352
その他	3,026	2,727
貸倒引当金	△7	△16
流動資産合計	69,841	78,685
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,664	5,664
その他	4,565	4,659
有形固定資産合計	10,230	10,324
無形固定資産		
のれん	1,115	1,044
その他	1,001	1,293
無形固定資産合計	2,116	2,338
投資その他の資産		
投資有価証券	7,831	6,990
長期貸付金	1,354	1,411
その他	8,413	8,120
貸倒引当金	△833	△846
投資その他の資産合計	16,765	15,675
固定資産合計	29,112	28,338
資産合計	98,953	107,024
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,715	19,369
電子記録債務	1,235	1,184
短期借入金	900	953
1年内返済予定の長期借入金	2,207	2,208
未払法人税等	1,616	1,795
賞与引当金	441	363
役員賞与引当金	195	45
その他	6,458	7,427
流動負債合計	26,770	33,348
固定負債		
長期借入金	8,033	7,481
役員退職慰労引当金	31	32
退職給付に係る負債	2,342	2,347
資産除去債務	1,302	1,321
その他	4,226	4,276
固定負債合計	15,935	15,458
負債合計	42,706	48,807

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	9,289	9,292
利益剰余金	37,520	39,985
自己株式	△3,415	△3,410
株主資本合計	51,342	53,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△356	△941
為替換算調整勘定	△8	△2
退職給付に係る調整累計額	65	62
その他の包括利益累計額合計	△298	△882
新株予約権	306	318
非支配株主持分	4,897	4,965
純資産合計	56,247	58,216
負債純資産合計	98,953	107,024

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	26,176	55,555
売上原価	19,571	42,537
売上総利益	6,604	13,018
販売費及び一般管理費	4,085	5,208
営業利益	2,519	7,809
営業外収益		
受取利息	4	6
受取配当金	7	167
仕入割引	19	35
持分法による投資利益	725	1
その他	78	33
営業外収益合計	834	243
営業外費用		
支払利息	17	38
為替差損	-	3
減価償却費	6	5
その他	1	4
営業外費用合計	25	51
経常利益	3,328	8,001
特別利益		
固定資産売却益	0	-
新株予約権戻入益	-	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	0	3
特別損失合計	0	3
税金等調整前四半期純利益	3,328	7,997
法人税等	711	2,355
四半期純利益	2,617	5,642
非支配株主に帰属する四半期純利益	920	67
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,696	5,575

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	2,617	5,642
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	△584
為替換算調整勘定	1	5
退職給付に係る調整額	△1	△3
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	-
その他の包括利益合計	5	△582
四半期包括利益	2,622	5,059
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,701	4,991
非支配株主に係る四半期包括利益	921	68

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	238百万円	298百万円
のれんの償却額	70 "	70 "

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	アミューズ メント機器 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,522	22,240	25,762	413	26,176	—	26,176
セグメント間の内部売上 高又は振替高	76	50	126	—	126	△126	—
計	3,598	22,290	25,889	413	26,303	△126	26,176
セグメント利益	1,048	2,057	3,106	7	3,114	△594	2,519

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△594百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△594百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	アミューズ メント機器 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,451	51,659	55,110	444	55,555	—	55,555
セグメント間の内部売上 高又は振替高	90	43	133	2	136	△136	—
計	3,541	51,703	55,244	447	55,691	△136	55,555
セグメント利益または損失 (△)	443	8,177	8,621	△8	8,612	△802	7,809

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益または損失(△)の調整額△802百万円には、セグメント間取引消去△53百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△749百万円が含まれています。

3. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「PS事業」としていたセグメント名称を「アミューズメント機器事業」に変更しています。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の名称で記載しています。